

おかざき 市議会だより

3月定例会

平成20年5月1日発行

活発な議論を経て

『安全・安心で活気に満ちたまちづくり予算』を可決



No. 142

目次

- 市長提案説明 …………… 2
- 議案審議 …………… 3～7
- 討 論 …………… 8
- 議案・請願・陳情審議結果 …… 9～10
- 代表質問 …………… 11～15
- 採択請願・6月定例会予定 …… 16

市長提案説明

本市初のPFI事業として整備を進めていた岡崎げんき館が平成20年3月1日にオープンし、西部地域交流センター（やはぎかん）を始め、動物総合センター、東部地域福祉センターなどの大型プロジェクトも完了する。今後は、市民にこれまで以上に「岡崎に住んで、本当に良かった」と感じてもらえ、市民が行政の主役になれる岡崎市をつくっていかなければならないの思いを強くしている。

新年度予算

平成20年度一般会計は1108億1000万円、特別会計は850億6238万円、企業会計は295億8530万円で総額は2254億5768万円となり、19年度当初予算



との比較は93・4%となった。

今年度予算は、「安全・安心で活気に満ちたまちづくり予算」として、引き続き岡崎21世紀プラン第9期実施計画や新市建設計画の確実な実施と中長期的な財政の健全性に留意している。予算編成は、安全・安心なまちづくり、都市基盤の整備、子育て支援、教育文化の振興の四つを重点課題として市民福祉の向上を目指した積極的なもので、主な重点事業は以下のとおりである。

重点事業

安全・安心なまちづくりでは、各地で地震災害が発生し、災害に備える必要性を強く感じている。防

災対策として緊急地震速報の活用に取り組み、小中学校を始め医療施設や防災活動拠点施設などに整備していく。また、東消防署形埜出張所については、21年4月の開所を目指し本体工事に着手していく。

更に、岡崎げんき館では、保健サービスを始め健康づくりや子育て支援などのサービスを提供して、市民の健康維持と増進を図り、元気で健康なまちづくりを進めていく。

都市基盤の整備は、東岡崎駅周辺及び藤川地区の拠点整備のため、

都市整備部に東岡崎・藤川地区整備課を設置するなど体制の強化を図り、事業を推進していく。

また、街路事業では、矢作地区の南北道路である矢作桜井線は、JR東海道本線と立体交差する（仮称）牧内跨線橋の調査設計を、岡崎環状線明大寺町地内では橋りょうの詳細設計を実施していく。河川改修では、占部川において県河川の広田川の改修計画に合わせ、下流より河道改修に着手していく。

子育て支援では、こども課を設置し、後期岡崎市児童育成支援行動計画の策定に向けた取り組みを始め、子育て関連の施策を重点的に進めていく。

保育事業は、延長保育や一時保育の実施園の拡大、本宿保育園の建て替えなどを実施する。また、乳幼児の医療助成事業は20年度から子ども医療助成事業に名称を改め、対象を中学校卒業まで大幅に拡大して子育て世代の経済的な負担を軽減する。更に、新生児聴覚検査費用の一部補助や、げんき館において子どもの発達や発育に不安を持つ親を支援する子ども発達サポート事業を始める。

教育文化の振興では、図書館交流プラザが間もなく本体工事を完了し、引き続き駐車場などの外構工

事を行うとともに図書館の移転事務を進め、一方で、開館のプレイベントも実施していく。開館後は、図書館を中核とした生涯学習施設として各種講座や講演会を開催するとともに、市民活動の活性化などによる地域の賑わいの創出を図る。

小中学校の施設整備では、災害時に避難所になることから建て替えるを進めていた屋内運動場は19年度で整備が終了した。引き続き、校舎の耐震補強を実施していく他、教室不足を解消するための校舎の増築や施設の老朽化に伴う改修も行う。

また、放課後の子どもたちの安全で健やかな居場所づくりのための対策事業として、小学校2校で子ども教室のモデル事業を実施する。

新文化会館については、老朽化した現市民会館に代わる新たな芸術文化の創造拠点として、基本構想の策定に着手する。

以上四つの重点事項の主な事業の他に、19年度に着手した新一般廃棄物中間処理施設は23年度に、水とみどりの森の駅整備事業の「わんPark」は21年度にそれぞれ完成を目指して工事が本格化する。また、金沢市との観光交流都市協定による市民ツアーや、好評だった乙川舟遊びも充実させていく。

議案審議

◆本会議における質疑

「平成19年度の事務事業評価の成果と来年度改善の内容は」との質疑があり、「446件の基礎事業と1372件の業務活動の事務事業評価を行った。拡大する事業は23.3%、現状維持が74.4%、縮小が2.2%であった。成果としては、1000件の業務活動の見直しや完了で13億円の経費削減を行った。20年度は、評価自体の精度を上げ2次評価・外部評価を充実するとともに、計画や予算の策定にも反映できるように連携を強化したい」と答えた。

「市の徴収体制強化の取り組みは」との質疑があり、「一つ目は、滞納者への早期対応として現年度滞納者に文書や電話で催告を行い、二つ目は長期滞納者に対し不動産や預金・給与の差し押さえを行うとともに不動産の公売も積極的に実行しており、不動産のインターネット公売も実施している。三つ目に夜間・休日納付窓口を開設するとともに、21年度のコンビニ収納の一部導入に向けシステムを整備していく」と答えた。

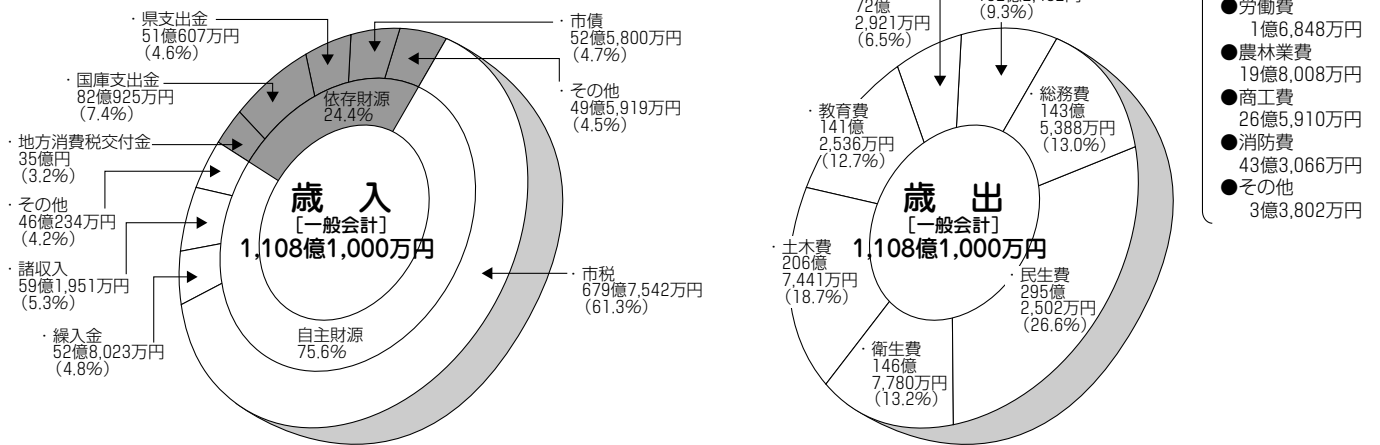
「税源移譲や定率減税の廃止及び住宅ローン控除の新設などによる所得軽減が本市に与える影響は」との質疑があり、「住宅ローン控除が

税源移譲により19年分の所得税から控除しきれない場合、20年3月17日までに申告すると住民税控除を受けることができ、市への影響額は2億4000万円、国から補填される。また、19年中に所得が減少して所得税控除ができない場合は、20年7月1日から31日までに申告すると住民税増額分が還付され、影響額は4億2000万円、うち県民税に相当する1億8400万円は県より交付される」と答えた。

「まちづくり交付金の予算額は」との質疑があり、「康生周辺地区の対象事業費は77億4760万円、限度額は22億4300万円、岡崎駅東地区の対象事業費は40億1000万円、限度額は16億4000万円、十王・若宮地区の対象事業費は9億8690万円、限度額は3億9400万円、矢作地区の対象事業費は14億8580万円、限度額は5億3100万円を見込んでいます」と答えた。

「20年度のいのちの教育アクションプランの内容は」との質疑があり、「家庭部会ではいのちをテーマにした市P連活動の充実、地域部会としては子どもを中心として地域がつながる実効性のある部会の再構築、園・学校部会では道徳・特別活動のいのちの教育学習指導案事例集（小学校版）を作成する。これらのアクションを重ねる中で子どもたちの豊かな心の醸成と態度・行動形成を目指して取り組んでいく」と答えた。

グラフでみる平成20年度当初予算



(単位 円)

<p>衛生費 39,134</p>	<p>民生費 78,719</p>	<p>総務費 38,270</p>
<p>公債費 19,274</p>	<p>教育費 37,661</p>	<p>土木費 55,122</p>

市民一人当たりでみた
一般会計歳出予算額
(4月1日現在の人口
375,067人)

会計別当初予算

(単位 百万円)

	予算額	対前年度比
一般会計	110,810	97.2%
特別会計	85,062	87.0%
企業会計	29,585	100.2%
計	225,457	93.4%

※6ページに主な事業を掲載してあります。

◆委員会における質疑

◇一般会計

◆総務費

「バス実証運行委託料の内容について伺う」との質疑があり、「鉄道駅などの都市の拠点を結ぶ基幹軸として3路線程度、各地域の特性にあった地域内交通で2路線程度の実証運行を考えている。基幹軸においては、各地域から要望が強かった市民病院へ行く拠点を結ぶ快速バスを目玉として考えている。地域内交通としては乗り合いタクシーや夜間バスなどについて、各地域の住民の意見を聞きながら考えていきたい」と答えた。

◆民生費

「精神障害者医療扶助費について制度の拡大があったと聞くが、その内容について伺う」との質疑があり、「精神疾患の入院医療費は、現在2分の1を助成しているが、これを全額助成することとした。通院医療費については、引き続き全額助成していく」と答えた。

また、「高齢者生きがい施設整備基本構想策定支援委託料の内容は。また、シルバー人材センターとの関係についても伺う」との質疑があり、

「本格的な高齢社会の到来に伴い、高齢者本人の意欲と能力に応じた社会参加機会の提供や雇就業機会の確保が求められている。そこで、高

齢の方が長年にわたり培ってきた豊富な知識・技能を積極的に活用した生きがいと健康づくりを促進したいと考えており、平成20年度は各担当部局で実施されている事業の整理やシルバー人材センターとの連携など、この施設の果たす機能を策定していく。さらに、職業安定所とも連携して求人情報の提供や起業相談、再就職セミナーや就業のための技術取得講座の開催など幅広く就労支援を行う。シルバー人材センター本来の事業と市の施策を効率的に連携させることによって、高齢者の就労支援をワンストップで行うことを目指していきたい」と答えた。

◆衛生費

「レジ袋の有料化こそがエコライフだと思いが、検討はされているか」との質疑があり、「県においても『ごみゼロ社会推進会議』の中でレジ袋削減を宣言しており、本市としてもその取り組みに積極的に参加していきたいと考えている。近隣市町村においても有料化の動きはあり、本市



エコバッグ

でもその傾向が強まって来ている。市内の大型ショッピングセンターなどの意向調査を行い、エコシール協力加盟店を中心に呼び掛け、20年度中には有料化の方向へ進んでいきたい」と答えた。

また、「新たな事業として『子ども発達サポート事業』が計上されているが、その内容は」との質疑があり、「4月からげんき館で実施する事業で、小児神経科医師などの専門職による相談事業や、療育などを行う支援関係機関とのネットワークづくりを進めていく。また、その他にも関係者へのスキルアップ研修や発達障害を理解するための講演会なども開催する予定である」と答えた。

◆商工費

「観光地魅力創造事業の内容について伺う」との質疑があり、「乙川観光船事業は昨年非常に好評だったことから、船を1隻増やして2隻とし、開催期間も2日間延長して17日間の運行を考えている。また、藤川地区においては、5月15日から25日までの11日間、夜7時から9時まで、藤川駅前のポケットパークのむらさき麦を始め5カ所でライトアップを行い、藤川宿の魅力の発信を考えている」と答えた。

◆土木費

「藤川地区整備事業の総事業費と年間利用者数の見込みについて伺う」との質疑があり、「本市整備分としては、地域交流センター、道の



藤川地区整備計画(イメージ図)

駅における地域振興施設、周辺基盤整備などで約50億円を予定している。また、国が整備する道の駅は約10億円と聞いている。利用者数については、前面の国道1号の通過車両が1日当たり約5万台であることから、年間70万人から80万人程度を見込んでいる」と答えた。

また、「景観資産調査は、ビスタ(眺望)ラインの測量だと思われるが、その内容と目的は」との質疑があり、「大樹寺境内の三門から大樹寺小学校の敷地を挟んだ総門を見通すと、3メートル先の岡崎城を眺めることができ、これが本市の眺望ラインである。このライン上にある宅地の現地測量によって建築物の高さの許容限度を把握し、眺望ラインの保全に必要な高度地区の導入を検討するための調査を行う」と答えた。

◆消防費

「新たに設置される高度救助隊と

消防二輪車の内容について何う」と

の質疑があり、「高度救助隊は、制度改正により中核市規模以上の消防本部に設置することとなったもので、地中音響探査機や夜間暗視装置などの各種救助資機材を備え、より高度な教育を受けた隊員で編成される。

本市では、平成20年度の中消防署本署の救助工作車の更新に合わせ設置する。また、大規模地震による被害は広範囲にわたることが予測され、被害現場の状況をより迅速に把握するため、小回りの利く消防二輪車を導入する。これにより、火災の発生状況、負傷者の状況、建物の倒壊状況、道路状況などの各種情報を収集し本部に連絡することができ、より高度な消防活動が期待できる」と答えた。

◆特別会計

◆市民休養施設桑谷山荘

「指定管理委託料が前年度に比べ800万円ほどの減額となっているが、その理由は」との質疑に対し、「事業収入において140万円の増加を見込んだこと、指定管理者内の組織の見直しなどにより人件費を440万円減額するとともに、更なるコスト削減に取り組んだ結果である」と答えた。

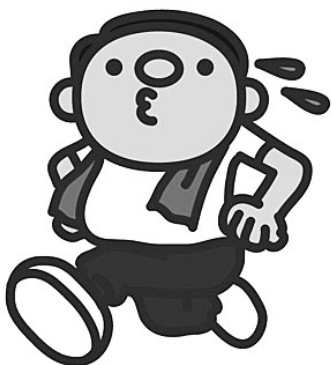
◆下水道

「下水道災害対応トイレは、災害時に市民が不自由なく使用できるように避難場所に設置されてきたが、こ

れまでの設置状況と今後の計画について何う」との質疑があり、「避難場所となる公園や学校を中心に10年度から整備を進めており、19年度末までに13カ所、125基のトイレを設置した。20年度も新たに4カ所、35基の設置を予定している。なお、設置については下水道が整備された地域の中で、地元の要望や全体のバランスなども考慮して実施している。今後も地域防災計画との整合性を図りながら整備拡大に努めていきたい」と答えた。

◆国民健康保険事業

「医療制度改革によって保険者に義務付けられた特定健康診査及び特定保健指導の対象者への周知方法について何う。国は24年において65%の受診率を目標としているようだが、目標に達しない場合のペナルティーなどはあるのか。また、現在の国民健康保険加入者の基本健康診査の受診率は」との質疑があり、「対象者



には特定健康診査の案内文を直接郵送し受診を呼びかけていく。それでもなお受診されない場合は、再度個人宛てに受診勧奨を行っていく。国が示す指針に沿って保険者が定める特定健診等実施計画の達成状況によって、25年度以降の後期高齢者支援金が、プラスマイナス10%の範囲内で加算減算が行われると聞いている。具体的な算定方法は今後決まってくるが、国民健康保険財政にとっては大きな影響があると認識している。

また、18年度の基本健康診査の受診率は、40歳から74歳で、39・8%である」と答えた。

◆企業会計

◆病院事業

「職員が56人増員されるが、その内訳は」との質疑があり、「医師39人、医療技術員2人、看護師13人、技能業務職員が3人増員され、行政職員は1人の減となる。医師39人の増員のうち34人については、現在、嘱託職員として勤務する専攻医を正規の職員にすることによるものである」と答えた。

更に、「研究研修費の増額の理由は」との質疑があり、「当院は、臨床研修指定病院として医師の専門知識や技術の向上に力を注いでいる。研修医はそういった技術の向上を目指して当院で研究しているという面があり、研修医や専攻医の学会での発表機会を増やすとともに、講習や

研修への参加を増やすために旅費を増額している。また、学会の参加費は今までは個人負担であったが、医師の教育環境改善のために必要な措置として全額公費負担とすることとし、研究雑費も増額した」と答えた。

◆水道事業

「現在、配水管の鑄鉄管敷設替えを進めているが、完了はいつか。また、火事で消火栓を使用すると近隣に赤水が出ると言われているが、敷設替えにより解消されるのか」との質疑があり、「水道創設時の昭和7年から30年代にかけて敷設された鑄鉄管は内面にさびを防ぐ処理がされていないため、さびが発生し赤水の原因となる。また、継ぎ手部分が弱く耐震性も低いため、平成11年度より計画的に敷設替えを行っている。19年度末の進捗率は54%であり、25年度の完了を目標にして進めている。これにより、消火栓使用による赤水の発生が抑制される」と答えた。



水道管敷設替工事

平成20年度
当初予算の主な事業

1 安全で住みよいまちづくり 予算額 千円
(都市基盤の整備)

・公共交通利用促進事業	16,000
・まちバス運行事業	80,500
・バス路線対策費	125,262
・バスネットワーク構築事業	60,900
・藤川地区整備推進事業	73,000
・東岡崎駅周辺地区整備推進事業	52,115
・東海地震等防災対策事業	70,789
・街路・道路新設改良事業	1,257,221
・橋りょう新設改良・修繕事業	584,934
・河川改修事業	950,536
・水辺環境整備事業	30,000
・岡崎駅東土地区画整理事業	1,103,695
・交通安全対策事業	269,606
・消防署出張所整備事業	280,433

2 安心して暮らせる人にやさしいまちづくり
(保健医療福祉の充実)

・岡崎げんき館整備運営事業	437,086
・災害時要援護者支援事業	3,441
・日中一時支援事業	51,759
・児童育成センター建設事業	48,893
・子育て支援の充実	5,950,044
・保育園園舎整備事業	157,650
・高齢者医療事業	4,675,085
・子ども医療助成事業	1,555,255
・特定高齢者把握事業	181,170
・子ども発達サポート事業	23,780
・妊婦健診補助事業	206,838
・新生児聴覚検査補助事業	7,564
・食育推進事業	12,705
・災害拠点病院の機能充実	441,776

3 快適で環境にやさしいまちづくり
(都市環境の整備)

・新一般廃棄物中間処理施設建設事業	3,038,933
・地球温暖化対策事業	41,000
・水環境創造プラン推進事業	3,289
・動物総合センター事業	267,163
・水とみどりの森の駅事業	153,196

予算額 千円

・岡崎(城址)公園、南公園、岡崎中央総合公園整備事業	729,900
・大門河川緑地整備事業	89,663
・市営住宅建設事業	319,556
・下水道事業の主な取り組み	6,517,804
・水道事業の主な取り組み	3,406,799

4 信頼とふれあいのまちづくり
(地域社会の充実)

・地域交流センター建設事業	32,947
・岡崎げんき館市民会議事業	9,654
・暮らしの防犯対策事業	50,987
・国際交流推進事業	9,802
・都市交流事業	2,485

5 文化の薫る人間性豊かなまちづくり
(教育文化の振興)

・図書館交流プラザ事業	1,584,749
・シビックセンター自主事業	22,800
・美術博物館企画展事業	134,771
・地域文化広場企画展事業	41,673
・小学校校舎等整備事業	798,673
・中学校校舎等整備事業	607,610
・いのちの教育アクションプラン推進事業	18,373
・特色ある学校づくり推進事業	14,400
・放課後対策事業	12,507
・旧本多邸復元活用事業	39,958

6 活力とにぎわいのあるまちづくり
(産業の振興)

・若年者職業的自立支援事業	1,700
・観光基本計画推進事業	18,848
・くらがり渓谷整備事業	86,635
・林業振興事業	203,560
・農地・水・環境保全向上対策事業	26,041

7 計画推進のために

・総合計画策定事業	13,664
・問合せ支援システム整備事業	33,075

平成20年度当初予算以外の議案

包括外部監査契約

包括外部監査人の監査を受けるとともに監査の結果に関する報告書の提出を受ける契約を行うもの。

質疑 同一人が継続して監査人となるが、そのメリットは。また、過去の監査指摘事項はどのように反映されているか。

答弁 同一人が監査をすることによって本市に対する知識が蓄積され、

きめ細やかな実施が期待できる。また、それまでの監査内容や方法を検証したうえで契約することも可能となる。過去の指摘事項に対しては、委託業務においてマニュアルや標準契約書を作成するなど、改善に向けて着実な措置がとられている。また、今後の公会計制度導入に関しても重要な意見をいただいている。

条例の一部改正

◇市営住宅条例及び特定公共賃貸住宅条例

市営住宅及び特定公共賃貸住宅への暴力団員の入居を制限するもの。

▼平成20年4月1日施行

質疑 暴力団員であることを判断する方法と、判明した場合の対応策について伺う。



市民病院周産期センター

答弁 入居申し込みの際や既存入居者による迷惑行為があった時など、疑わしいと思われる場合に愛知県警へ照会し判断する。これにより暴力団員と判明した場合は、自主退去、あるいは暴力団からの脱会をお願いしていく。また、不正行為及び住民や職員に対する恫喝などを行い、市との信頼関係が損なわれるような場合には、住宅の明け渡し請求を行っていく。

◇市民病院の料金に関する条例

医療に係る料金を見直すもの。

1 助産料 1件につき11万円〜13万円（出産日時の区分による）

2 新生児育児見介助料 1日に付き7000円

▼平成20年7月1日施行（掲載分）

質疑 助産料を改定する理由について伺う。

答弁 市民病院の助産料が低料金であることを理由に、岡崎地域以外の方が市民病院で出産するケースが増加している。これにより、岡崎市民が安心して出産できなくなる懸念がある状況になっているため、他の公立医療機関と同程度の料金に改定する。

条例の制定

◇後期高齢者医療条例

後期高齢者医療制度の創設に伴い、必要な事項を定めるもの。

▼平成20年4月1日施行

質疑 各地で説明会を開催してきたが、今後の市民からの問い合わせにどのように対応していくのか。

答弁 対象者には3月14日に保険証を発送しており、4月中旬には年金からの保険料引き落としが始まる。

これにより問い合わせの増加が予想されるため、3月18日から市役所福祉会館1階に相談窓口を開設する。この窓口には相談員6人と端末機3台を配置して、多数の相談に対応していきたい。

◇水を守り育む条例

健全な水循環に関する施策の基本的事項を定めるもの。

▼平成20年4月1日施行

質疑 この条例は理念条例であるが、実効性について伺う。

答弁 健全な水循環の確保という考え方を取り入れて全国に先駆けて制

定する条例であるが、具体的な計画は水環境創造プランで定めている。今後は、条例によって設置される水循環推進協議会で計画の見直しや進捗管理を行い、確実に水施策を推進していく。

◇自然環境保全条例

自然環境の保全及び創出について必要な事項を定めるもの。

▼平成20年10月1日施行

質疑 この条例の中で特徴的な内容は何か。

答弁 本市の健全な生態系を確保するために保護区や貴重種・移入種を指定し、行為の規制を設けている。また、これらに関する違反行為に対しては罰金を科す罰則規定も設けている。

平成19年度補正予算 3月補正後の予算額	一般会計 (3月補正額)	1,159億7,498万円 4億8,125万円
	特別会計 (3月補正額)	1,029億5,269万円 19億6,892万円
	企業会計 (3月補正額)	297億2,541万円 3億9,691万円
	計 (3月補正額)	2,486億5,308万円 28億4,708万円

討 論

本会議最終日に各委員会審査の委員長報告を受けて、各党派が賛成、反対の意見を述べ、賛同を求めました。

市長提出議案

○『平成20年度一般会計予算』

自民清風会は、「『安全・安心で活気に満ちたまちづくり予算』とされた平成20年度予算には、安全・安心なまちづくり、都市基盤の整備、子育て支援、教育文化の振興という4項目の重点事項が挙げられている。全体としては21年度を初年度とする第6次総合計画の策定を視野に入れた個別事業の基本調査や、将来計画に関する取り組みが多く、20年度は本市の新たなスタートになるものと期待する」と意見を述べ、賛成した。

ゆうあい21は、「郊外地区や中山間地区から市民病院へ向けたバスの実証運行を行うなど、交通弱者の救済や安全で住み良い快適な交通社会の構築を推進する施策が計画されている。また、特別会計も含めそれぞれ細部にわたりきめ細やかな予算化がされている。執行に当たっては、無駄をなくし節減に努めるよう要望する」と意見を述べ、賛成した。

公明党は、「子ども医療費の無料化の拡大は長年要望してきたこと

であり評価する。また、げんき館内では待望の子ども発達サポート事業が実施されるが、十分な体制による親切丁寧な対応を要望しておく。歳入については、景気の先行きが不透明な中で、市民生活に直結した施策展開のための財源確保に向けて努力しており評価する」と意見を述べ、賛成した。

日本共産党岡崎市議団は、「行政評価制度と公会計制度の導入は、

利益を追及しない市の財政処理にはなじまない。また、後期高齢者医療は、高齢者に差別医療や保険料を新たに課すものであり、障害者自立支援法も根本的な見直しでなく、市独自の減免制度も作られていない」とし、反対した。

民主クラブは、「大型プロジェクト完成の影響により、国庫補助金

や市債などが減額しているが、市税などは増額を見込むことができた。結果として昨年度に比べ32億円の歳入減となったが、平常の年の予算としてはしつかりしたものだと認識する。歳出も安全・安心予算として均衡が取れている」と意見を述べ、賛成した。

○『平成20年度病院事業会計予算』

ゆうあい21は、「患者数の減少

に伴う収益の減少も見られるが、医師公舎借り上げ礼金や研修費の増額などにより医師の確保に努めている。また、第三次救急医療を担う中核的総合病院としての医療水準を確保し、

多様化する患者ニーズに対応するための医療機器の充実も図っている」と意見を述べ、賛成した。

公明党は、「嘱託の専攻医を正規職員にすることなど、身分の安定を図ることによる医師の環境改善を進めている。医師の確保策としては、

将来にわたり信頼される病院の体制を作ることが重要であり、今後の努力を期待する」と意見を述べ、賛成した。

日本共産党岡崎市議団は、「医

師の確保が困難になっている中で、専攻医の正規職員化や産婦人科医師の増員を進めたことは、医療職の過重労働の解消としても評価できる。しかし、今回は助産費などの大幅な引き上げがある」とし、反対した。

民主クラブは、「全国的に厳し

い状況にある中で医師と看護師の増員を果たしており心強く感じる。更に経営改革にも努められ、市民の命と健康を守る病院として更なる前進を期待する」と意見を述べ、賛成した。

○『平成20年度水道事業会計予算』

ゆうあい21は、「水道ビジョン

の策定が10年計画でスタートするが、水道料金収入の大幅増を見込むことができない中での経営戦略や、今後に取り組むべき施策を策定するものだとして理解する。また、現状においても铸铁管の敷設替えや施設の耐震補強など、多岐にわたる事業に尽力している」と意見を述べ、賛成した。

公明党は、「男川浄水場の大規

模更新に備え、徹底したコスト削減を行うって財源を確保するよう要望する。また、今後の方向性や具体的な施策を計画的に実行していくための水道ビジョンの策定により、安全で安心な水の安定供給に一層努めてほしい」と意見を述べ、賛成した。

日本共産党岡崎市議団は、「料

金改定時の計画では毎年5億円としていた男川浄水場改修事業の積立金が9億5800万円計上されている。命にかかわる水道料金はできるだけ安くすべきであり、余剰金は積み立てよりも料金の引き下げに使うべきである」とし、反対した。

民主クラブは、「震災を想定し

て、主要施設や避難所に通じる導水管の耐震化を新たに加えている。給水収益の大幅な拡大は難しい状況であるので、経費節減や将来を見据えた水道ビジョンの策定によって、おいしくて安全な水道水の供給に努めてもらいたい」と意見を述べ、賛成した。



男川浄水場

件名	採決結果	会派別賛否 (○賛成、×反対)				
		自民清風会	ゆうあい21	公明党	日本共産党	民主クラブ
市長提出議案（平成20年度分）						
平成20年度駐車場事業特別会計予算	可決	○	○	○	×	○
平成20年度土地区画整理事業清算金特別会計予算	〃	○	○	○	○	○
平成20年度簡易水道事業特別会計予算	〃	○	○	○	○	○
平成20年度農業集落排水事業特別会計予算	〃	○	○	○	○	○
平成20年度競艇事業特別会計予算	〃	○	○	○	×	○
平成20年度国民健康保険事業特別会計予算	〃	○	○	○	×	○
平成20年度老人保健特別会計予算	〃	○	○	○	×	○
平成20年度後期高齢者医療特別会計予算	〃	○	○	○	×	○
平成20年度介護保険特別会計予算	〃	○	○	○	×	○
平成20年度継続契約集合支払特別会計予算	〃	○	○	○	○	○
平成20年度地域汚水処理施設特別会計予算	〃	○	○	○	○	○
平成20年度額田北部診療所特別会計予算	〃	○	○	○	○	○
平成20年度母子寡婦福祉資金貸付事業特別会計予算	〃	○	○	○	○	○
平成20年度豊富財産区特別会計予算	〃	○	○	○	○	○
平成20年度宮崎財産区特別会計予算	〃	○	○	○	○	○
平成20年度形埜財産区特別会計予算	〃	○	○	○	○	○
平成20年度病院事業会計予算	〃	○	○	○	×	○
平成20年度水道事業会計予算	〃	○	○	○	×	○
訴えの提起	〃	○	○	○	○	○
手数料条例の一部を改正する条例及び保健所の設置等に関する条例の一部を改正する条例の一部改正	〃	○	○	○	○	○
議員提出議案						
市議会委員会条例の一部改正	可決	○	○	○	○	○
請願						
水と緑・歴史と文化のまちづくり条例改正	不採択	×	×	×	○	×
条例違反による事前協議結果通知	不採択	×	×	×	○	×
国民健康保険の人間ドックおよびがん検診等への補助の存続を求めること	採択	○	○	○	○	○
陳情						
永住外国人への参政権付与を日本国政府に求める意見書を採択しないよう求めること						意見を付して議長に報告することとした。
自主共済制度の保険業法の適用除外を求める意見書の提出						

委員会の活動（1月～2月）

常任委員会	総務企画委員会		福祉病院委員会	
	1月24日～25日	ひめじ防災プラザについて姫路市を、入札制度について広島市を調査	1月11日	げんき館
	2月19日	第6次総合計画	1月21日～22日	すこやかプラザについて尼崎市を、市役所内障害者就労支援施設『作業所 時のわらし』、『福祉コンビニ』について明石市を調査
	環境教育委員会		経済建設委員会	
	1月22日～23日	千葉市科学館について千葉市を、エコポリスセンターについて板橋区を調査	1月22日～23日	観光振興施策について尾道市を、西野浄水場について三原市を調査
	2月 5日	・水環境創造プラン ・図書館交流プラザ	2月 1日	都市計画マスタープラン全体構想骨子案
特別委員会	行財政改革検討特別委員会		東岡崎駅周辺整備検討特別委員会	
	1月17日	未収金の現状	2月20日	東岡崎駅周辺整備の現況
	2月18日	企業会計における未収金の現状と対策	地球温暖化対策特別委員会	
	公共交通対策特別委員会		2月13日	・地球温暖化対策 ・委員会の今後の取り組み
	1月31日	バス路線対策の現状	2月21日	・環境家計簿 ・地球温暖化対策特別委員における環境家計簿への取り組み ・環境家計簿の実施について、他の議員への働きかけを行うこと
議会運営委員会				
2月21日	3月定例会の運営			

代表質問

3月定例会では、会派を代表して、市政の課題や重要事業などについて質問がありました。なお、太字の質問項目を掲載しています。

●自民清風会

・市長2期目の総括と今後の取り組み

・平成20年度当初予算

・市民生活・地域社会の充実

・保健・医療・福祉の充実

・環境共生都市の実現

・地域振興

・都市基盤・生活基盤の整備

・教育文化の振興

・まちづくり基本政策推進

●ゆうあい21

・平成20年度予算編成と今後の財政見通し

・行財政改革

・中核市移行5年の総括と課題

●第6次総合計画

・主要プロジェクト

・市民協働

・主要施設（新設）の役割

・福祉保健行政

・医療行政（市民病院の運営）

・教育行政

・観光行政

・環境行政

・人事管理

●公明党

・平成20年度予算と財政運営

・第6次総合計画

市政のここが聞きたい

・子育て支援の充実

・障害者・高齢者福祉の充実

・保健医療の充実

・都市基盤の整備

・安全安心のまちづくり

・災害時の対応

・学校教育の充実

・環境行政

・農業政策

・市民サービス向上の取り組み

●日本共産党岡崎市議員

・市長の政治姿勢

・市民の暮らしと健康を守ること

・生活環境の整備、地域経済の振興

・憲法と教育基本法に基づく教育と文化・スポーツ

・平和行政

・民主クラブ

・平成20年度の本市予算編成

・平成20年度予算の国の方針等への対応

・快適で住みよく未来へ響くまちづくり

・子供たちが生き生きと夢見る教育の実践と文化薫るまちづくり

・健康で安心して暮らせる人

やさしいまちづくり

自民清風会

■中根 勝美

市民生活・地域社会の充実

問 11月にオープンする「りぶら」には、各交流センターを統括し、市民活動と自己実現を支援する機能があると聞かれましたが、ボランティアやNPO法人の活動は人数や規模、目的とする分野や活動地域など様々である。「りぶら」は、多様な面があるボランティアなどへの活動支援をどのように展開していくのか。

答 現在、市民活動情報ひろばに登録しているボランティア及び



りぶら

び市民活動団体は420団体あり、本市は市民活動団体助成金や市民活動総合保障制度など様々な支援を行っている。今後は「りぶら」が市民活動支援の中心的な機能と役割を果たせるよう、生涯学習、市民活動、国際交流、男女共同参画の四つの機能を統合した市民活動総合支援センターに総合窓口を設け、市民センターや地域交流センターとのネットワーク化の推進など市民活動の支援を積極的に進めたい。また、講座、学習、相談、市民交流などの市民活動の総合調整を積極的に推進し、その役割が果たせるよう努めていきたい。

都市基盤・生活基盤の整備

問 透明な行財政改革の推進が叫ばれている今日、本市が市民主導型の行政システムを構築するために策定した集中改革プランは、取り組みごとに指標が設定され、分かりやすいものとなっている。5年間の集中改革プランの計画期間が残り2年となったが、進捗状況と取り組み項目の見直しについて伺う。

答 集中改革プランの策定においては、内容や目的を明確化するため目標値はできる限り数値で表すことを原則とし、成果重視の行政

を推進している。各取り組み項目の平成18年度の実績は、完了3%、計画以上が21%、計画通りが62%で、計画未達の取り組みが14%あることから、計画期間中に取り組みむべき項目は積極的に推進していきたい。また、集中改革プランは、毎年度見直しを行っており、19年度も新たな項目の追加や一元化などの改訂作業を行っている。

まちづくり基本政策推進

問 「岡崎21世紀プラン」第9期実施計画において、東岡崎駅

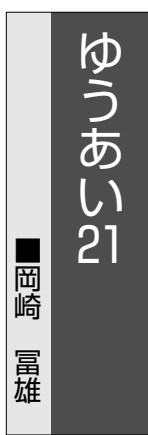
周辺地区整備推進と藤川地区整備が市街地整備の主要事業に挙げられている。両地区の整備計画とスケジュールについて伺う。

答 東岡崎駅については用地を現在より東側に拡大し、2層式での整備を予定している。一般車や



東岡崎駅北口

バスなどは1階部分に、改札口や自由通路は2階部分に配置するペデストリアンデッキとなる計画である。20年度には周辺整備であるまちづくり基本計画の策定と駅前広場の設計に着手し、21年度中には変更都市計画の決定へと進めていきたい。藤川地区の整備は、東部地域交流センターや県内の国道1号では初となる道の駅の建設及び周辺道路などの基盤整備を行うものである。19年度には市民参加のワークショップを5回開催し、基本計画を策定した。今後は、20年度に施設の実施設計を行い、23年度には建設工事に着手したい。



中核市移行5年の総括と課題

問 本市は平成15年4月に中核市

に移行し、移譲される権限を最大限に活用して自己決定、自己責任の下で新しい岡崎市を目指すこととなった。ステップアップ戦略を策定して目指すべき中核市の方向性を定め、どのようにまちづくりを進めてきたのか。

答 市民満足度向上、分権推進システム構築、市民サービス力

向上、市民協働推進の四つの戦略からなるステップアップ戦略を策定し、職員の意識改革と人材育成に努めて



きた。また、県から2452件の事務の引き継ぎと事務処理特例条例に基づく権限の移譲を受け、市民に身近なところで事務が行えるよう努めている。しかし、都市計画決定などの権限はまだ移譲されておらず、専門的な知識を持った職員の育成をしながら、引き続き財源の移譲も含めて強く国に要望していきたい。

第6次総合計画

問 第6次総合計画策定の中間報告では、市内を八つの地域に

区分して広域の協働相手とすることや、市民やNPO法人などを主体とした市民自治の実現などが主要課題として取り上げられている。これは地域ごとにコミュニティ組織を立ち上げ、対応の役割と権限を移譲する「都市内分権」を目指したものと理解するが、今後どのように推進していくのかを伺う。

答 NPO法人やボランティア団

体に加え、企業や大学にまで地域貢献の動きが広がっていることから、新しい市民協働の仕組みづくりによって本市らしい市民自治の実現を考えている。これには地域コミュニティと行政組織の体制づくりが必要とされるため、現在の町内会や小学校区を範囲とする地域コミュニティを支援する地域コミュニティを進めるなど、方向性や課題を把握しながら段階的に市民自治を根付かせたい。また、財政的な権限の移譲を含め、自治力に応じた市民分権を行っていくこともできると認識している。

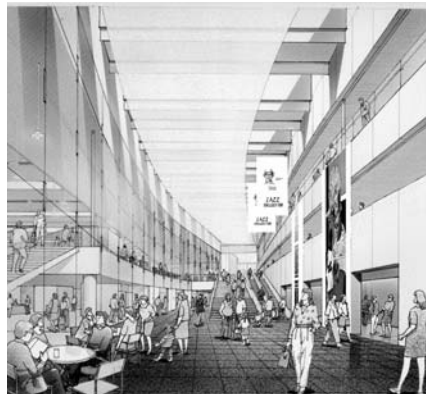
主要プロジェクト

問 中心市街地の活性化に関する基本計画では、地域ぐるみの

積極的な活動が不可欠とされており、活力あるまちづくりのためには「リぶら」を中心に、地域が一体となって大きく動き出すことが期待されている。現在のまちづくりへの取り組み状況と、今後の支援方針について伺う。

答 岡崎城下まち都心再生協議会

では、NPO法人を設立して中心市街地整備推進機構の指定申請を目指している。また、これに共同して商工会議所では、法定の中心市街地活性化協議会の設立に向けた動きなどがあると聞いており、本市としてはその運営費について補助をしていきたいと考えている。今後は、



りぶら交流スペース(イメージ図)

そうした機構などが住民との仲立ちとなつて地域が明確な目標を持つて進んでいく場合には、2年ごとに見直しを行いながら、段階的な支援を積極的に行っていくと考えている。

公明党

■畔柳 敏彦

都市基盤の整備

問 平成18年度に設置された交通政策会議により、今後の交通施策の考えや取り組みなどについて検討が進められ、20年3月末に総合交通政策が取りまとめられると聞いている。交通政策を展開していく中で検証や見直しも必要と考えるが、今後の事業展開と交通政策会議の存続について伺う。

答

今後の交通政策事業は、名鉄バスの廃止申し出路線を赤字

補填により存続しながら、新規制度である地域公共交通活性化・再生総合事業の認定を受けて財源を確保し、市民からの要望が強いバス路線の整備や域内交通の整備などの実証運行を行っていきたい。しかし、事業認定には20年3月末までに法定協議会を設置し、事業をこの協議会が実施することが条件であるため、交通政策会議を法定協議会として再編するよう準備を進めている。また、公共交通は市民生活に必要不可欠であるため、市民との協働により検討を進め、魅力ある使いやすい公共交通の実現を目指していく。

農業政策

問 中山間地域では野生生物による水稲や野菜、樹木の剥皮被害など、鳥獣被害が深刻である。被害防止計画を策定した市町村に都道府県知事の鳥獣捕獲権限を移譲する



剥皮被害

とともに、必要な財政措置もとられ制定されたが、本市の対応について伺う。また、東三河方面では、20年度に猿害対策に有効とされるモンキードッグがモデル事業として実施されるが、本市の見解は。

答

鳥獣害防止施策を総合的かつ効果的に実施するため、被害防止計画を速やかに作成して、鳥獣害防止総合対策事業などの補助事業を導入していきたいと考えている。また、作物を荒らす猿を追い払うように犬を訓練するモンキードッグについては、モデル事業の実施状況を注意深く見守り、効果が確認できた場合には、事業実施を県に働きかけるなどしていきたい。

市民サービス向上の取り組み

問 証明書発行窓口は東庁舎に移転後、同一フロアでかつ隣り合う窓口にするなど利便性の向上が図られたが、複数の証明を必要とする場合は並び直しとなる。これを改善することは可能か。また、勤務形態やライフスタイルの多様化に対応して、平日に来庁することができない人のために窓口サービスを拡充する考えはあるか。

答

窓口サービスは、市民に分かりやすく、ワンストップで済むことが望ましいと考えていることから、4月1日から住民関係と税関



市民課窓口

係の証明を1カ所で交付し、待ち時間の短縮を図る。また、3月下旬から4月上旬にかけては住民の異動が多いことから試行的に3月29日と4月5日の土曜日に臨時窓口を開設する。今後は、平日の窓口混雑の解消や休日の窓口サービスの拡充のため、東岡崎駅周辺整備に合わせ、駅ビルへの行政サービス機能の配置なども検討していきたい。

日本共産党岡崎市議団

■柳田 孝一

市長の政治姿勢

問 八帖交差点の立体化の現況と地元住民の意見をどのように把握しているのか伺う。また、少子化による交通量の減少も考えられるが、将来の交通量をどのくらいと見込んでいるか。

答

住民参画により市八帖交差点渋滞対策懇談会を立ち上げ、



八帖交差点

様々な視点から改善方策の検討を行い、国道248号立体案と国道1号立体案の2案が取りまとめられた。今後は地元報告会などで意見を伺い、最良案をまとめていきたい。また、過去の交通量の推移や現況については把握しているが、将来交通量の推定は国土交通省から提示されていない。ただし、西三河は人口も増加し、経済や産業活動も非常に活発であるため、今後交差点渋滞の緩和は見込めないと考えられ、中長期的にわたる渋滞解消や生活道への通過交通解消のための事業を進めるべきと考える。

市民の暮らしと健康を守ること

問

4月1日から後期高齢者医療制度が始まり、高齢者への負担増や医療の制限などが予想されるが、制度に対する本市の見解は。ま

た、制度開始に当たり、独自の減免制度をつくったところもあると聞くが、導入の考えは。

答

後期高齢者医療制度は、高齢者の医療費が年々増大する中で、世代間の負担の公平化を図ることによって国民皆保険を堅持し、将来にわたり持続可能で安定的な医療保険制度の構築を目指す一連の医療制度改革によるものと理解している。この制度における保険料は、後期高齢者広域連合が定めると法律で決められており、更に、広域連合内では均一の保険料とすることも決められている。また、減免制度についても広域連合が定めるとされており、県下の市町村では独自の減免制度の創設を考えているところはないと聞いている。

生活環境の整備、地域経済の振興

問

名鉄バスの廃止申し出路線は市が赤字補填することにより当面の間存続することとなり、市民病院への直通バスも実現されると聞いている。今後は、まちバスを多くの市民に利用してもらう方策や地域間交通の充実が課題と考えるが、住民参加で地域交通の充実を図っていく本市の方針に基づき、どのように施策を進め、支援していくのか。

答

市内中心部から山間部へ伸びる長距離バス路線は、不採算路線が多いことから、地域の特性に

見合った持続可能な交通として見直す必要がある。そのためには、地域において交通施策を検討する地域交通会議などの組織が必要と考えている。本市としては、地域住民の意見を聞いたり、バスを走らせる可能性を探るため、職員と地域住民とが一緒になって検討組織を立ち上げ、交通体系整備を進めていきたい。具体的には、地域の検討組織と協働で実態調査を基に整備計画を立てて試験運行を行い、課題や事業性などを踏まえて本格的運行につなげていきたい。



名鉄バス桜形線

民主クラブ

加藤 繁行

平成20年度の本市予算編成

3月定例会の動き

- 3日 本会議
開会、会期決定、市長提案説明
- 4日 本会議
代表質問
- 5日 本会議
代表質問
- 7日 本会議
平成20年度議案説明
- 11日 本会議
平成20年度議案総括質疑、委員会付託
- 12日 本会議
平成19年度議案説明、質疑、討論、採決
- 14日 経済建設委員会
- 17日 福祉病院委員会
- 18日 環境教育委員会
- 21日 総務企画委員会
- 25日 議会運営委員会
- 27日 本会議
委員長報告、質疑、討論、採決
追加議案の説明、質疑、採決、閉会





東消防署形埜出張所(イメージ図)

問 平成20年度の本市予算は、どこに基調を置いて、市民のニーズを踏まえた予算編成に取り組みられたのか伺う。

答 20年度予算は積極的に財源を確保したが、歳出予算との均衡を図るため、事業の見直しや削減を余儀なくされ大変厳しい財政状況であった。しかし、市民参加による市民主導型の行政を推進するためには、的確に市民ニーズをとらえた重点施策の展開が必要であることから、「安全・安心で活気に満ちたまちづくり予算」として、市民満足度をより高めるために、岡崎に住んでみたい、住んでよかった、住み続けたいと市民が実感できるまちづくりを目指すことを基調として予算を編成した。重点施策としては、安全・安心なまちづくり、都市基盤の整備、子育て支援、教育文化の振興を四つの柱に、東消防署形埜出張所建設、道路網の整備によるまちづくり、県下

で初めての新生児聴覚検査補助、新図書館を核とした生涯学習施設の整備などの事業を展開していく。

平成20年度予算の国の方針等への対応

問 11年度末に3232あった市町村数が、19年7月には1788となり、全国的に市町村合併が進展したものの都道府県ごとにはばらつきがあり、国は引き続き合併を積極的に推進している。本市は18年1月に旧額田町と合併したが、将来を見据えて豊かで住みよいまちづくりを展望する上で、今後の合併についての考えを伺う。

答 市町村合併には、経費削減などの財政基盤の強化が図られるといった効果がある。また、情報化の進展などにより広域的行政需要は増大してきていると認識していることから、市町村合併や広域連携は地方公共団体にとって重要な行政課題と考えている。本市としては、古くから同一の生活圏を有し、広域的な連携・交流が深く、広域市町村圏協議会を構成している幸田町との合併を視野に入れながら近隣自治体とも連携を一層強化し、活力ある都市づくりを進めていきたい。

**子供たちが生き生きと
夢萌る教育の実践と
文化薫るまちづくり**

問 教育基本法及び教育三法の改正を受けて、21年度から新学

習指導要領の一部が実施される予定と聞いているが、現行学習指導要領との相違点や特徴について伺う。また、新学習指導要領への移行措置に伴う教育委員会や学校現場での対応は。

答 学習指導要領の基本理念である生きる力を育むという点ではこの理念を実現するための学力の要素として基礎的、基本的な知識・技能の習得などの具体的な手立てが明確にされ、更に生きる力を育むよう授業時間の増加などが示された。また、新学習指導要領への移行は21年度に開始され、23年度に小学校、24年度に中学校で完全実施されることとなっており、各学校に情報を伝えるとともに、十分研究をして、混乱が生じないように対応を進めていきたい。



議会を傍聴して

○市民から徴収した税金を市民のために使うよう環境、福祉、教育等諸問題について具体的な説明があり、市の取り組みや活動状況が良く分かりました。
(64才、男性)

○文化会館、教育館、科学館などの公共施設の建設の話題が出たが、市民の暮らしを良くするために市にしてほしいことは、温かい心の通った市政であると思う。質問者はゆっくりと質問してほしい。早口になるのは残念だ。もつと耳の聞こえの遠くない者に配慮をし、時間を気にしないようにしてほしい。
(80才、男性)

○3月定例市議会を傍聴いたしました。来年度予算等々、色々の事を勉強致しました。3月げんき館完成、11月図書館完成、大きな仕事を完成させ、来年度予算は大変だと思えます。市長さん、議員の皆さん、大変だと思えますが、頑張ってください。
(69才、男性)

○質問をすべて言ってから回答という形よりも一つの質問に対して回答というやり方のほうが分かりやすいと思えました。また、メリハリがあつて良い様な気がします。
(33才、男性)

6月定例会予定

5月29日(木)	請願・陳情締切
6月2日(月)	開会・市長提案説明・一般質問
5日(木)	一般質問
6日(金)	一般質問
9日(月)	一般質問
11日(水)	議案説明・総括質疑・委員会付託
13日(金)	経済建設委員会 福祉病院委員会
16日(月)	環境教育委員会 総務企画委員会
20日(金)	議会運営委員会
23日(月)	委員長報告、質疑、討論、採決、閉会

○代表質問の通告内容は、開会日までにホームページに掲載します。(アドレスは下段に掲載)
○開会、一般質問、閉会の模様は、ケーブルテレビミクスで中継する予定です。
○各会議の開催時刻は午前10時の予定です。(福祉病院委員会と総務企画委員会は午後1時の開催予定)

請願と陳情

市政について意見があるときは、請願書や陳情書を市議会に提出することができます。

請願は市議会議員の紹介を必要としますが、陳情の場合はその必要がありません。

市議会では、請願については委員会で審査した後、本会議で採択か不採択、または保留を決定し、その結論を請願者へ通知します。一方、陳情は委員会で意見を述べるだけで、本会議に報告した後、関係機関に意見を付して処理を要請します。また、審査結果を陳情者へ通知しています。

採 択 請 願

●国民健康保険の人間ドックおよびがん検診等への補助の存続を求めている

理由 ・市民の健康を守る上で、各種健診の受診率を上げる努力は必要である。今後も補助制度を継続するよう求める。

議会にかかわる条例の改正

(平成20年4月1日施行)

●市議会政務調査費の交付に関する条例の一部改正

年度途中の会派所属議員数の異動等に係る事務処理の効率化を図るため、その手続きを定めた。

●委員会条例の一部改正

市の組織の名称変更に伴い、規定を整理した。

議会を傍聴してみませんか

本会議や委員会の傍聴は、入口で住所・氏名をご記入いただくだけです。お気軽にお越しください。(本会議場は西庁舎3階、委員会室は西庁舎2階です) 6月定例会の予定は上記のとおりです。



◎議会の日程、傍聴、請願・陳情などに関する事項は、議事課(☎23-6378)までお問い合わせください。

議会ダイヤル ☎

自民清風会	☎23-6390
ゆうあい21	☎23-6394
公明党	☎23-6396
日本共産党岡崎市団	☎23-6397
民主クラブ	☎23-6385
無所属	☎23-6405
議会事務局	☎23-6377

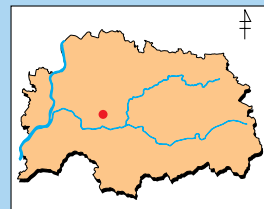
青葉に風薫る季節となりました。新年度の予算は「安全・安心で活気に満ちたまちづくり予算」として、安全・安心なまちづくり、都市基盤の整備、子育て支援、教育文化の振興を重点課題として市民福祉の向上を目指した積極的な予算編成となっております。

本会議で各会派より市政の課題や重点事業などについて代表質問がなされ、また、各常任委員会は、条例改正などを始めとした重要議案に対し、終始熱心に審査が行われました。これらの内容を分かりやすく掲載し、お届けいたします。



編集後記

◎であい橋のたもとに咲いた芝桜。芝のように地面をはうことからその名がつけられ、小さな花をたくさんつけます。春のひと時、のんびりと散策するのもいいですね。



表紙の写真

中央総合公園